

設立趣旨書

1 趣 旨

今年、平成19年、彦根城は慶長12年の創建より築城400年を迎えます。これに合わせ、3月21日より国宝・彦根城築城400年祭が開催されます。これを一過性の祝祭イベントとするのではなく、市民が彦根の誇るべき歴史と文化を再発見し、また新たな未来に伝える伝統を創造する機会にしなければなりません。

世界遺産への本登録が希求される中、市民共有の歴史財産である国宝彦根城やその周辺の景観に市民が関心と愛着を持ち、貴重な文化財を身近に感じてこそ、これらを大切に保存、継承し、未来へ発展的に受け継いでゆけるのです。その一助とならんと、NPO法人 小江戸彦根を立ち上げます。

彦根市民をはじめ、広くたくさんの方々に彦根城の魅力をつたえるにはどうすればよいか考えて参りました。

それは新しい視点で彦根城を見直すことから始まると考えました。

従来の動線をなぞり城山にのぼりおりするだけでなく、水面から長大な石垣を見上げ、天守を望む視点の利用です。

堀に歴代彦根藩主の使用した御好屋形船を復元、運航させ、ほぼ江戸時代のままだに残る堀端の景観をゆっくりと堪能できる観光ルートの開発です。

石垣や水門の美しさ、水の視点から見る彦根城のさらなるうつくしさ、静寂でおくゆかしい堀の景観をたのしんでいただきたいのです。

堀をめぐる屋形船の頭上には、春には桜が咲き乱れ、秋には紅葉が目をおおいます。

冬には暖かな船内からの雪見船、夏には涼やかに納涼船と、それぞれの季節ごとに素晴らしい御城の景色があります。

屋形船の利用により、春・秋に集中する彦根城への観光客をわずかでも平滑化し、冬季、夏季需要の喚起につなげたいとも考えます。

もう一つ新しい視点として、今まで彦根城に登ることのできなかつた足腰のお悪い方々、高齢者や障害者のニーズの掘り起こしです。

御城は元々防御施設のため、残念ながらだれでも簡単に本丸にまでたどり着ける

ものではありません。

御城は高いから彦根城には行けないねと諦めていた人たちにも、天守閣に登ってみるだけが彦根城の観光ではなく、もっと身体を酷使せずとも彦根城を観光できる方法として屋形船を提案したいのです。

将に、だれでも楽しめる彦根城にしてこそ、多くの人に来て見ていただけるのだと思います。

近年、観光客の求める価値や嗜好も変化し、本物を時間をかけて体験したいという傾向にあります。

近年の堀の浚渫や石垣、堀端道路の整備により、眺望も格段によくなってきております。

井伊家の御好屋形船を博物館の資料から忠実に再現し、それに乗って本物の壮大な彦根城の石垣や堀を周遊するこの企画は、この傾向に合致するものだと考えます。

観光客の屋形船利用によって彦根での滞在時間が延びることは、ひいては観光客の消費の拡大にもつながり、地元商店や観光産業への活性化にもつながると考えます。

また、築城400年祭における市民ボランティア団体ひこねを盛り上げ隊による城域一帯での時代仮装による小江戸空間演出の一翼を担い、市民、観光客がより楽しめる彦根城作りに貢献したいと考えます。

ここで彦根をよみがえらせるほどの気概を持って、我々はこの築城400年祭にあたっていきたいと思います。

400年祭の終了後も屋形船運航事業は継続させます。

400年祭を機にできた新たな観光資源として発展させ、恒久的に彦根の観光に寄与するとともに、残るひこねを盛り上げ隊のサポートも継続的におこなっていく考えです。

2 申請に至までの経緯

屋形船の運航とは旅客運送事業であり、旅客の安全に対して最大限の配慮と明確な責任体制を築いておこなうものです。

常に事故の発生のないように努力し、万が一事故のある場合は速やかに対応でき

る組織をもって運航をおこなう責任があります。

よって、この様な体制を整備して事業をおこなう為に、また国宝・彦根城築城400年祭終了後も継続して事業をおこなう為にも、ここに NPO 法人 小江戸彦根の設立を発起し、この法人に国土交通省近畿運輸局よりの旅客運送の許認可を得て、堀での屋形船運航事業をおこなってゆきたいと考えます。

平成19年2月4日

特定非営利活動法人 小江戸彦根
設立代表者 彦根市城町一丁目3番29号
棚橋 勝道